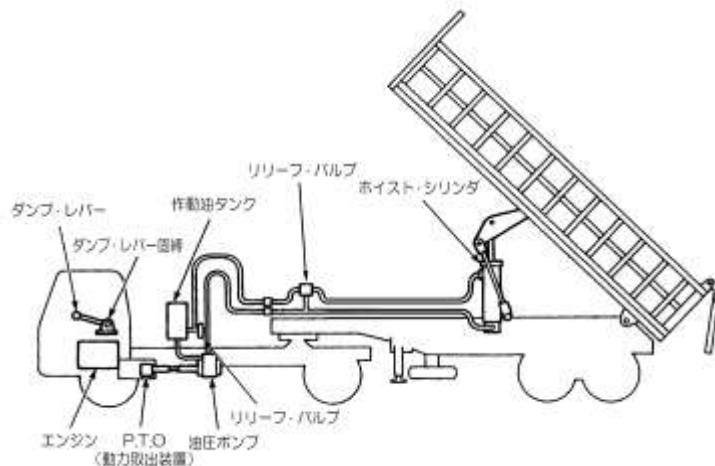


NO. 27	発行日 2010年3月	改定日 2016年3月
ダンプ・トレーラ油圧装置の取扱注意事項について		

1. 作動原理

油圧ポンプで発生した油圧は、ダンプレバーの操作により、操作バルブを経てシリンダに入りピストンロッドを押します。この作動力がテンションリンク、リフトアーム等のリンク機構を介して荷台を上昇させます。

なお、荷台が一定位置まで上昇するとシリンダ内のリターンポートから作動油がバイパスするので、ポンプは回転していても荷台は停止します。しかし、このままポンプの回転を続けるとポンプの焼付きの原因になるので、速やかにクラッチを切るか P.T.O スイッチを「OFF」として下さい。

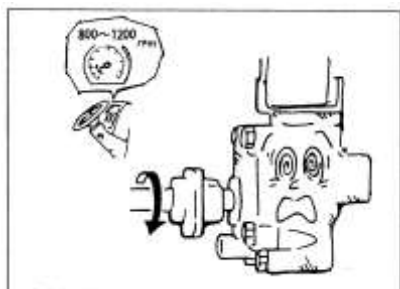


⚠ 注意

- ・ 走行時には必ず P.T.O スイッチを「OFF」、ダンプレバーを「下げ」の位置にロックしたのを確認してください。

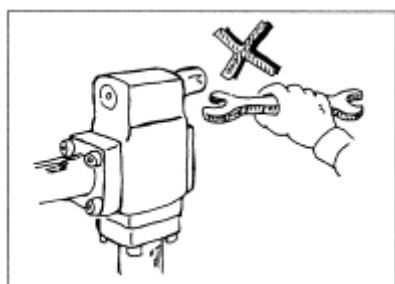
2. リリーフ・バルブの装着車

⚠ 警告



- ・ 車両損傷の危険
エンジンを高速回転にしてダンプアップしないで下さい。
エンジン回転は、1,200rpm 以下でご使用下さい。

本車両は、油圧回路中にリリーフ・バルブ（逃し弁）を組込んでいます。過積載をするとこれが作動し、荷台が上がりにくくなります。この時エンジン回転を上げて無理にダンプアップしようとする、ポンプ焼付・各機構部の損傷・オイル漏れにつながりますので、直ちにダンプアップを中止して下さい。



⚠ 警告

- ・ 車両損傷の危険
リリーフ・バルブは、封印されています。絶対にさわらないで下さい。
車両及びダンプ装置に異常な力が加わり、車両及び各機構部の損傷による、大事故につながる危険があります。

ダンプ・トレーラ油圧装置の取扱注意事項について

3. 日常点検・定期点検について

⚠ 注意

- ・日常点検項目とメンテナンス部品、点検整備要領など参考にして頂き、日頃より車両手入れを行って下さい。
- ・作動油の交換は新車時や定期点検整備時の3月後、または初回からのダンプアップ回数500回後、及び1年毎、またはダンプアップ回数2,000回毎に実施して下さい。

4. 連結・切り離しについて

⚠ 注意

- ・ダンプアップの状態でのカップリング切り離しは絶対に行わないでください。カプラ部に圧力が残り、接続が出来なくなります。
- ・接続時はカップリングの汚れをウエス等でよく拭き、配管内にゴミが入らないようにしてください。
- ・カップリングの接続面に損傷を与えないでください。
- ・ホースを接続しないときは、カップリングをキャップで保護してください。